

経済学教育における授業時間外学習促進の試み

社会科教育講座・松野尾 裕

1. 授業の概要

授業科目：希望の経済学（後学期・水曜日・2限）

授業題目：経済発展と人間発展。

授業のキーワード：生活の質、人間発展、自由としての経済発展、社会的企業。

教職資格にかかわる事項：中一種免（社会）、高一種免（公民）「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の選択科目。

授業の目的：21世紀の社会を真に人間の思いやりに満ちた社会とするためには、経済活動はいかにあるべきか。そのビジョンを描き、実現の可能性を追求するための基礎的力を身に付ける。

授業の到達目標：(1)人間が生きるにふさわしい経済社会の創造を模索する思考を身に付けている。(2)いくつかの著作を手掛かりにして新しい経済社会を構想する短いエッセーを論述することが出来る。(3)社会的企業やNPOなどの新しい経済社会をつくる具体的な運動に関心を持つことが出来る。

ディプロマ・ポリシー：共生社会を築くため、地域・福祉・平和に関する幅広い知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)。地域・福祉・平和をめぐる現代社会における諸問題に関心を持ち、これらの問題に取り組むための理論と実践を結び付けた主体的な学習ができる(関心・意欲)。

授業概要：人間が生きるにふさわしい経済社会を創造しようとする実践的・理論的試みを、いくつかの事例に即して追究する。扱う事例は以下の授業スケジュールに示す通り。なお、授業スケジュールは受講者の関心と学習のための準備の状況に応じて変更することもある。

第1回 はじめに—授業の趣旨説明

第2回 問題の提示—「人間の経済」を考える

第3回 A.T.アリヤラトネの実践
—サルボダヤ・シュラマダーナ (1)

第4回 同上 (2)

第5回 同上 (3)

第6回 M.ユヌスの実践—グラミン・バンク (1)

第7回 同上 (2)

第8回 同上 (3)

第9回 賀川豊彦の実践—生活協同組合 (1)

第10回 同上 (2)

第11回 同上 (3)

第12回 A.センの経済学—自由と発展 (1)

第13回 同上 (2)

第14回 同上 (3)

第15回 まとめ

授業の方法：受講者による文献内容の発表と、教員の主導による討論・考察、関係文献の紹介等を繰り返し、最後に受講者各自でエッセーを書き、授業内で発表した後、提出する。

主文献として、A.T.アリヤラトネ/山下邦明・林千根・長井治訳『東洋の呼び声—拡がるサルボダヤ運動』(2001年)、M.ユヌス/猪熊弘子訳『貧困のない世界を創る—ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』(2008年)、賀川豊彦/野尻武敏監訳『友愛の政治経済学』(2009年)、A.セン/石塚雅彦訳『自由と経済開発』(2000年)。

授業時間外の課題：事前に指定された文献を用いて授業時における発表・発言のための準備を行う。授業中に指示された文献・資料等を利用して、理解の不十分な箇所を調べる等の復習を行う。

成績評価：授業中の発表・討論内容、及びエッセー(提出されたもの)の内容に基づいて評価する。評価の基準は、まず文献の内容を理解し適切な発表ができているか、及び授業内の討論を理解し参加しているか(50点)、次いで授業の内容を各自の考察へ発展させているか(50点)、である(合計100点)。

受講者数：14人

人間社会デザインコース2回生 14人

授業の進捗状況：授業はほぼ当初のスケジュール通りに進行した。

2. 授業評価アンケート

授業者が独自に作成した「授業評価アンケート」を用いた。

質問

あなたの授業時間外学習の実情についておたずねします。

A. あなたはこの科目にかんして

1. 発表が課されていない時、授業時間外の学習時間は毎週何時間くらいでしたか。

2. 発表が課されている時、

(1) 課題の量は適当でしたか。

- (2) 発表の準備をするために何時間くらいかかりましたか。
- (3) 発表後、発表の内容にかんする事後学習の時間をとりましたか。

B. その他

3. 規程では各科目（実習科目を除く）について授業時間と同じ時間の授業時間外学習をすることになっています。現状の時間割にもとづく履修であなたはこれを実行することが可能ですか。
4. 3で「不可能」と答えた人におたずねします。不可能の理由は何ですか。簡単に書いて下さい。
5. 授業時間外学習について、意見があれば自由に書いて下さい。

3. アンケートの結果と分析

アンケートの結果：

受講者14人のうち9人が回答した。

A.

- | | |
|-----------|----|
| 1. およそ0時間 | 1人 |
| およそ0.5時間 | 0人 |
| およそ1時間 | 8人 |
| およそ2時間 | 0人 |
| 3時間以上 | 0人 |

2.

- | | |
|-----------|----|
| (1) 少なすぎる | 0人 |
| 適当 | 9人 |
| 多すぎる | 0人 |

- | | |
|------------|----|
| (2) およそ1時間 | 1人 |
| およそ2時間 | 5人 |
| およそ3時間 | 1人 |
| およそ4時間 | 2人 |
| およそ5時間 | 0人 |
| 6時間以上 | 0人 |

- | | |
|------------|----|
| (3) およそ0時間 | 2人 |
| およそ0.5時間 | 4人 |
| およそ1時間 | 2人 |
| およそ2時間 | 1人 |
| 3時間以上 | 0人 |

B.

- | | |
|---------|----|
| 3. 可能 | 4人 |
| 工夫すれば可能 | 5人 |
| 不可能 | 0人 |

4. ——

5.

○授業時間外学習は、より学びを深めるために必要なものであるように感じる。しかし、主体的にすることによって効果が出るものだと思う。

○今回の講義内容は自分の興味のあるものだったので、もっと文献があっても嬉しかったです。

○とても良い学習ができました。

分析：

今回のアンケートは「授業時間外学習の実情」にしぼって質問を設定した。上記の「授業の方法」及び「授業時間外の課題」で述べた通り、本授業は、文献講読・発表・討論を軸にして展開されるものであったから、発表に当たっていない者も毎週「1時間」程度の予習・復習を行っていた。発表に当たっての課題の量は全員が「適当」と回答しており、「適当」と判断する根拠は、発表の準備に要した時間で見れば「2時間」とする者が最も多く、次いで「4時間」となっている。

授業時間外学習の課題の量としては、2時間の準備で授業に臨める程度のものが適当だということになる。

発表した後の発表の内容に関する振り返りの時間は、「0.5時間」とする者が最も多く、「0時間」と答えた者もあり、振り返りの時間が少ないことが気になる。受講者には、予習をしておかないと授業で発言できないという気持ちが先行してしまったのかもしれない。授業は「ゆっくりと進める」という方針をとったつもりであったが、復習の大切さを伝えきれていなかったようである。

現状の時間割にもとづく履修で授業時間外学習の時間を確保することについて、全ての者が「可能」あるいは「工夫すれば可能」と回答している。履修が過密な状況のなかでも授業時間外学習の時間は工夫次第で確保できると学生自身が考えているのは頼もしいことである。

4. 授業時間外学習の促進について

学生に対しすべての履修科目について一律に授業時間外学習を求めることは、難しい。多くの履修科目のうちには、力を入れて学ぼうとする科目と、そうでない科目があるというのは自然なことであり、むしろそうしたなかで、自らの学習関心のありかを発見していくであろう。

アンケートの自由記述欄の記述からもうかがえるが、受講者が少数の教室であっても、熱心に予習復習をして授業に臨んでいる者と、そうでない者が混在しており、そのことを前提として、授業者は授業を進めなければならない。反転学習や、アクティブ・ラーニングの開発が求められている今日、たとえ予習復習を十分にしていない者でも気後れせずに授業に参加できる、また熱心な受講者もそうした者を受け入れられるような授業展開をする力量が授業者には求められているのだと考える。